

石巻市

南境貝塚

仙台湾沿岸大貝塚の縄文土器

仙台湾沿岸の貝塚群

縄文時代の貝塚は、宮城県内で約 210 か所見つかっており、国内有数の貝塚密集地帯として知られています。特に仙台湾沿岸は、多島海の広がる松島湾や、リアス海岸の発達した牡鹿半島など、入り組んだ複雑な地形に多くの貝塚群が集中しています。この地域は、当時の人々が豊かな海の恵みを楽しみながら暮らした環境であったと推測されます。

貝塚は、貝の殻や動物の骨などの食べかすのほか、不要になった道具類などを捨てた場所です。貝塚では、日本に広く分布する酸性の土壌が、貝殻の炭酸カルシウムのアルカリ性により中和され、通常は残りにくい動物や魚の骨、鹿の角や骨で作られた漁具などがよく保存されています。貝塚を調べることで、当時の人々の生活をよりくわしく知ることができます。

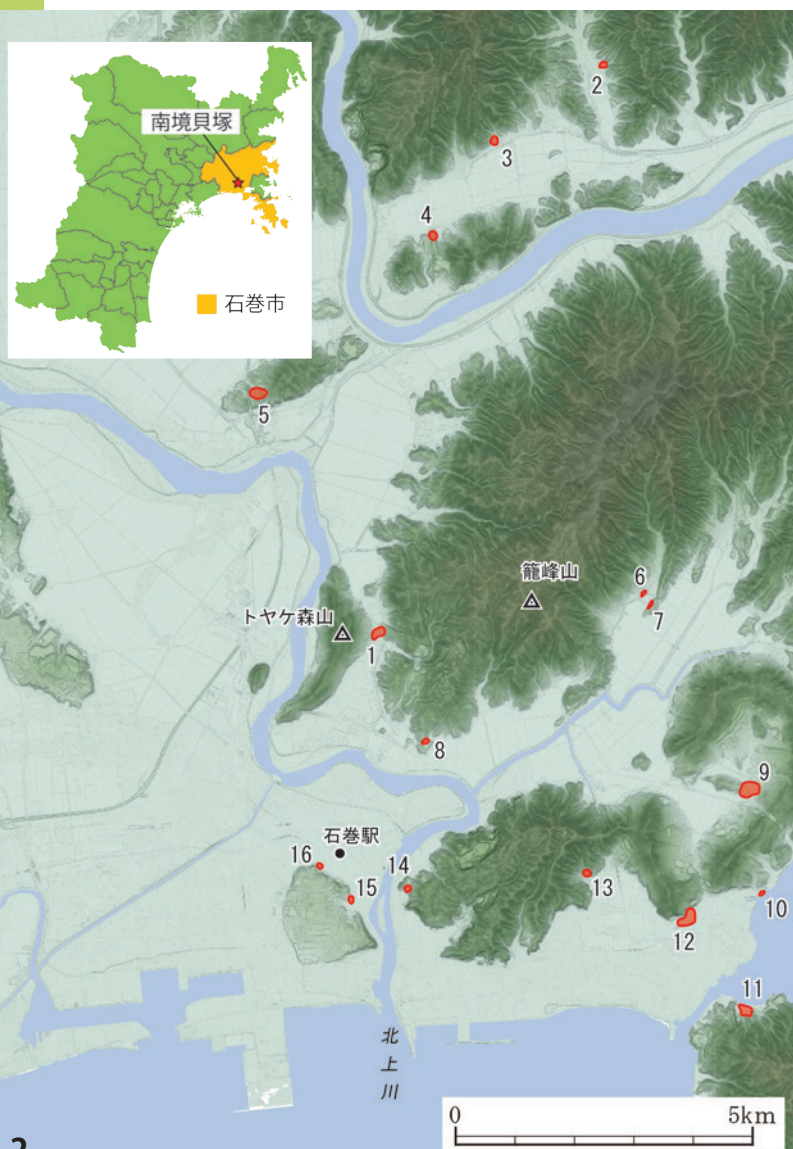


仙台湾とその周辺における縄文時代の貝塚の分布

南境貝塚とは

南境貝塚は、JR石巻駅から北へ約 3.7km、宮城県石巻市南境字妙見に所在し、北上川下流左岸、トヤケ森山と籠峰山との間に広がる標高 15 m ほどの丘陵に立地しています。遺跡範囲は東西 120 m・南北 150 m で、現況は水田や宅地となっています。

縄文時代の貝塚として古くから知られており、大正 2 年（1913）から地元の考古学研究者である遠藤源七・毛利総七郎によって調査されました。出土した縄文時代後期前葉の土器は「南境式土器」と呼ばれ、東北地方南部の標識的資料となっています。また、数多く出土した骨角製漁具に対する楠本政助の研究は、縄文時代の漁労活動を解明する上で大きな成果をあげました。



No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	南境貝塚	9	国史跡 沼津貝塚
2	皿貝貝塚	10	町貝塚
3	中島貝塚	11	梨木畑貝塚
4	日影貝塚	12	垂水囲貝塚
5	沢田山貝塚	13	根岸堤貝塚
6	寺前貝塚	14	館山貝塚
7	小沢貝塚	15	永厳寺貝塚
8	箕輪山貝塚	16	明神山下貝塚

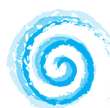
南境貝塚の位置と周辺の貝塚

南境貝塚の土器 時代とともにうつりかわる形と文様

南境貝塚では、縄文時代早期末～晩期中葉（約7,000～2,700年前）にかけて、断絶をはさみながらも、長期間人々の営みが続いており、膨大な量の遺物が残されています。

貝塚から出土する土器の特徴は地層ごとに異なっており、形や文様など土器のデザインが時代とともに移り変わっていることが分かります。

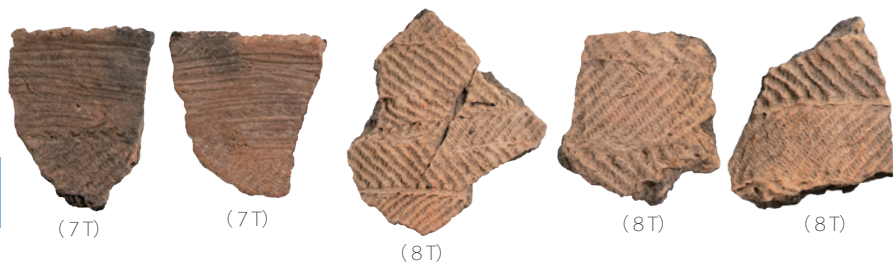
土器の特徴をくわしく調べ、他の遺跡から出土した資料などと比較することによって、その土器が含まれている地層の年代や、他の地域との文化的な影響関係などを探ることができます。遺物を含む地層・貝層がいくつも重なり、多くの土器が出土している南境貝塚は、まさに情報の宝庫と言えます。



早期末～前期初頭

（約7,000年前）

粘土に植物の繊維を練り込んだものもあり、縄目痕などのシンプルな文様がみられる。



(5・6T15層)



中期後葉

（約4,700年前）

ひも状の粘土を貼り付けた渦巻や線によって、ダイナミックな形や文様がつくられる。



(8T12層)



(8T12層)



(8T11層)



中期末

（約4,500年前）

棒状の道具で「C」「G」「U」などアルファベットのような文様が描かれる。



(7T16層)



(8T11層)



(5・6T14層)

※写真の縮尺不同。



後期初頭

(約 4,500 年前)

デザインにまとまりのある中期とは対照的に、多様な形・文様が登場する。棒状の工具を無数に押し当てた文様や、鎖状の造形の縁取りなどがある。



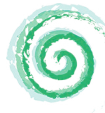
(5・6T13層)



(7T12層)



(7T14層)



後期前葉

(約 4,000 年前)

棒状の工具で引いた線などから構成される、平面的な装飾が多い。

→次ページで詳しく紹介



(7T9層)



(5・6T2層)



(7T6層)



後期中葉

(約 3,500 年前)

口縁部に大きな突起が付けられるなど、立体的な装飾が多くみられるようになる。



(7T3層)



(7T3層)



(7T3層)



(8T2層)



(7T2層)



晚期中葉

(約 2,700 年前)

縄目痕を一部磨り消したり線で区画して、流れる雲のような文様が施される。



(7T2層)

文様をひもとく

写真と拓本で見る後期前葉の土器

南境貝塚で最も多く出土しているのが、今から約 4,000 年前、縄文時代後期前葉^{ぜんよう}の遺物です。ここでは、大量に出土した土器の文様について、写真と拓本^{たくほん}を交えて紹介します。

拓本は、土器の上に紙を密着させて墨^{すみ}を少しずつ塗り、文様などを写し取る記録方法で、写真よりも鮮明に文様を表現することができます。



拓本の作成作業

大きな「し」字状の文様



この部分
クローズアップ

(11 層)

拓本

(10 層下)

拓本

(9 層)

拓本

縦方向の鎖状の文様



(9 層)



拓本

この部分
クローズアップ



(10 層)



拓本

突起を貫通する穴や円の文様



この部分
クローズアップ

(9 層)

拓本

(9 層)

拓本

(9 層)

拓本

ギザギザの刻み目の縁取り

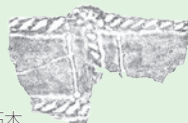


この部分
クローズアップ

(9層)



拓本



(9層)



拓本



(9層)



拓本



上が「C」字状の縦長の文様

(11層)



拓本



この部分
クローズアップ

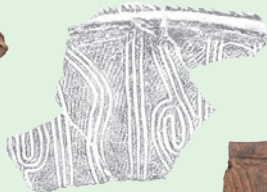


数本の線で描かれた円・渦巻・ジグザグ

(9層)



拓本



(9層)



拓本



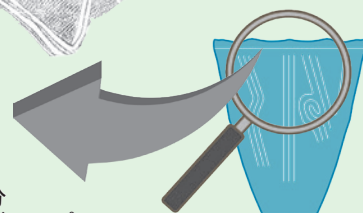
(9層)



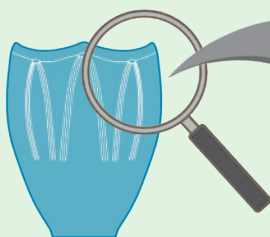
拓本



この部分
クローズアップ



縦方向の線で描かれた放射状の文様



この部分
クローズアップ

(8層)



拓本



(7層)



拓本



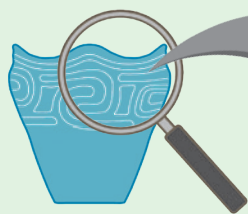
(7層)



拓本



縄目と無地で構成する幾何学的な文様



この部分
クローズアップ

(4層)



拓本



(5・6層)



拓本



(3層)



拓本



貴重な資料を未来へ 公開活用に向けての取り組み

発掘調査で発見された遺構や遺物は、野外調査や、その後の室内整理で詳細な記録作成や分析の作業が行われ、その成果をまとめて「発掘調査報告書」として刊行されます。

報告書刊行後、出土遺物や記録類は博物館や文化財収蔵施設で保管されます。これらの資料を適切に整理・保管し、公開・活用していくことも、文化財の保護にとってとても重要なことです。



遺物台帳作成



土器の接合



拓本の作成



遺物写真撮影



遺物の梱包



遺物・記録類の保管

年表 南境貝塚の時代

約 38,000 年前	旧石器時代	
約 16,000 年前	縄文時代	草創期
約 12,000 年前		早期
約 7,000 年前		前期
約 5,500 年前		中葉 前葉
約 4,500 年前		中葉 中葉
約 3,300 年前		後葉 前葉
約 2,500 年前	弥生時代	

みやぎ文化財チャンネル

県内の遺跡発掘調査や文化財イベント情報などを分かりやすく紹介するYouTubeチャンネルです。発掘作業のリアルな様子や、出土品に関するくわしい解説など、さまざまな動画を配信しています。ぜひ、ご視聴ください。



南三陸町大久保貝塚
発掘調査ダイジェスト



深掘り！埋蔵文化財解説
石鏃とは何か？



文化財課 HP



みやぎ文化財
チャンネル

編集・発行 宮城県教育庁文化財課

令和 7 (2025) 年 3 月

〒 980-8423 宮城県仙台市青葉区本町三丁目 8 番 1 号 電話 022(211)3684

文化財課ホームページ <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/bunkazai/>

みやぎ文化財チャンネル <https://www.youtube.com/channel/UCRhvh9A-1Y3xlWD8qsOLPBq>



この冊子は1冊あたり
39.6円で印刷しています。